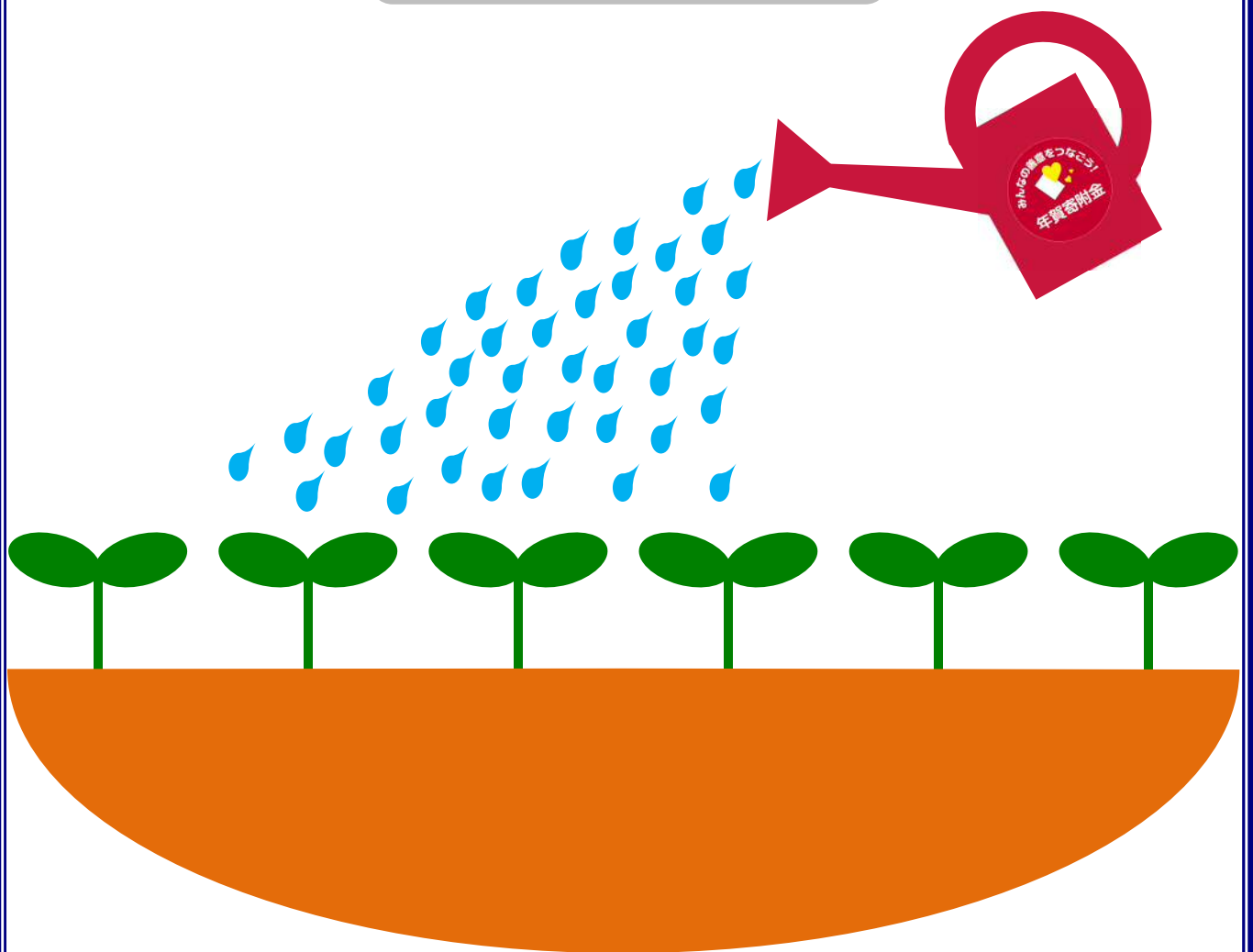


2014 (平成26) 年度年賀寄附金配分事業

活用事例



日本郵便株式会社



活用事例目次

1. 活動・一般

| | | | |
|-----|-----------|-------------------------|---|
| 1-1 | 特定非営利活動法人 | 東京児童文化協会（東京都新宿区） | 1 |
| 1-2 | 特定非営利活動法人 | 森のライフスタイル研究所（長野県伊那市） | 2 |
| 1-3 | 特定非営利活動法人 | トゥギャザー（大阪府大阪市） | 3 |
| 1-4 | 特定非営利活動法人 | アートマネジメントセンター福岡（福岡県福岡市） | 4 |
| 1-5 | 特定非営利活動法人 | 全国女性シェルターネット（東京都文京区） | 5 |
| 1-6 | 特定非営利活動法人 | いきいき百歳応援団（高知県高知市） | 6 |
| 1-7 | 特定非営利活動法人 | 思いをつなぐ会（群馬県高崎市） | 7 |

2. 活動・チャレンジ

| | | | |
|-----|-----------|------------------------|----|
| 2-1 | 特定非営利活動法人 | 富士見町体育協会（長野県富士見町） | 8 |
| 2-2 | 特定非営利活動法人 | 風の子会（東京都葛飾区） | 9 |
| 2-3 | 特定非営利活動法人 | 劇場創造ネットワーク（東京都杉並区） | 10 |
| 2-4 | 特定非営利活動法人 | おかやま多機能サポートネット（岡山県笠岡市） | 11 |
| 2-5 | 特定非営利活動法人 | 子どもっとまつど（千葉県松戸市） | 12 |
| 2-6 | 特定非営利活動法人 | 棚田LOVER's（兵庫県市川町） | 13 |
| 2-7 | 社会福祉法人 | いのちの電話（東京都千代田区） | 14 |

3. 施設改修

| | | | |
|-----|-----------|------------------|----|
| 3-1 | 特定非営利活動法人 | スマイル（愛知県名古屋市） | 15 |
| 3-2 | 特定非営利活動法人 | 津久井福祉会（神奈川県相模原市） | 15 |
| 3-3 | 社会福祉法人 | ほっこり福祉会（大阪府貝塚市） | 16 |
| 3-4 | 公益財団法人 | 山本能楽堂（大阪府大阪市） | 16 |

4. 機器購入

| | | | |
|-----|-----------|-----------------------|----|
| 4-1 | 社会福祉法人 | 心愛（大阪府枚方市） | 17 |
| 4-2 | 社会福祉法人 | 鶴翔会（福島県会津美里町） | 17 |
| 4-3 | 公益社団法人 | 生態系トラスト協会（高知県高知市） | 18 |
| 4-4 | 特定非営利活動法人 | 四国ブロックフリースクール（香川県高松市） | 18 |


5. 車両購入

| | | | |
|-----|--------|--------------------|----|
| 5-1 | 社会福祉法人 | すこう福祉会（長野県須坂市） | 19 |
| 5-2 | 社会福祉法人 | 超寿会（岡山県総社市） | 19 |
| 5-3 | 社会福祉法人 | 平川市社会福祉協議会（青森県平川市） | 20 |
| 5-4 | 社会福祉法人 | 丸野福祉会（宮崎県都城市） | 20 |

6. 東日本大震災の被災者救助・予防

| | | | |
|-----|-----------|----------------------|----|
| 6-1 | 特定非営利活動法人 | ビーンズふくしま（福島県福島市） | 21 |
| 6-2 | 特定非営利活動法人 | I C A文化事業協会（東京都世田谷区） | 22 |
| 6-3 | 特定非営利活動法人 | 秋田パトラーズ（秋田県秋田市） | 23 |
| 6-4 | 特定非営利活動法人 | いわて連携復興センター（岩手県北上市） | 24 |

1. 活動・一般プログラム

| | |
|---|-----------------------------|
| 事例 1-1 | 特定非営利活動法人 東京児童文化協会（東京都新宿区） |
| 事業名 | 高齢者や被災者を励ますための「お手紙キャラバン隊」事業 |
| 事業種別 | 青少年の健全な育成のための社会教育を行う事業 |
| 配分額 | 500 万円 |
| <p>【事業内容】</p> <p>東京都内の子ども会や児童館、地域センター、学校、放課後広場などと協力し、子どもたちのグループやサークルなどの小集団の場で、人形劇など児童文化財の鑑賞を通して手紙の良さや大切さを理解した後、近隣の高齢者施設の入居者や、東日本大震災の被災者にはがきや絵手紙、封書などを書き、届ける活動を行った。</p> <p>都内 6 カ所で「お手紙キャラバン隊」を編成し、各 5 回・延べ 30 回活動した。年間の体験者は延べ 1,295 人。</p> <p>＜お手紙キャラバン隊の活動内容＞</p> <p>① 児童文化財（紙人形劇）の鑑賞 紙人形劇「一通の手紙」の鑑賞を通して、手紙を書く大切さ、受け取る楽しさを理解する。</p> <p>② 鑑賞後、指導員がテキストを用いて手紙の書き方を指導し、使用済み定型封筒をリサイクルして作成した紙人形の中に激励の手紙を入れるなど、絵手紙や封書を作成し、高齢者や被災者の方に送付する。</p> <p>＜手紙を受け取った方の声＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何年か振りに絵手紙付きのクリスマス・カードを頂きました。幼児が書いてくれた絵がとてもかわいく、たくさんの元気をいただきました。とても気持ちの良い歳末でした。 ・東京から今年も温かいお手紙をいただきました。いつもお心にかけていただき本当に感謝しています。紙人形の中に入っているお手紙は、私たちにどれほど力を与えてくれるか、ありがとうございました。 <p>また、どんな紙人形が届くのかな。そして誰が書いてくれるのかな。そのお手紙が届くことをお待ちしております。</p> <p>【参考写真】</p> | |
|  | |

| | |
|--------|---------------------------------|
| 事例 1-2 | 特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所（長野県伊那市） |
| 事業名 | 大震災被災地住民の生活環境の回復を図るための海岸保安林再生事業 |
| 事業種別 | 地球環境の保全を図るために行う事業 |
| 配分額 | 500 万円 |

【事業内容】

東日本大震災の津波被害を受けた千葉県九十九里海岸のなかでも、最も被害の大きかった山武市蓮沼殿下海岸保安林の再生に向けた森林保全活動を、行政、地元企業、一般市民によるボランティアなどの協力を得ながら行った。

数十キロにも及ぶ広さの海岸保安林の再生を行政単独ですべて行うのは現実的ではないことから、フロント部分（津波に対する機能回復として必要な樹林帯 50m 以上のうち、30m 程度の前方向部分）は行政主体、バック部分（30m 以降の後方向部分）は民間協力型という「民間協力型の海岸保安林再生モデル事業」として活動を行った。

① 森林ボランティア活動

- ・津波の浸水により塩害を受けて枯れてしまった木々を撤去（伐採を含む）した。
- ・植樹のためのマーキング、海岸保安林に適した樹種である抵抗性クロマツの植樹を行った。
- ・ボランティア活動は、年 4 回実施、延べ 205 人が参加
 継続参加者 132 人、新規参加者 73 人
 行政 2 人、企業 56 人、団体 4 人、個人 143 人
- ・植林本数：3,000 本
- ・海岸保安林の再生面積：3,000 m²・3ha
- ・土砂の流出を防ぐ効果：15 m³（10 トンダンプ 3 台分）
- ・水資源を蓄える効果：2,471 m³（25m×10m プール 10 個分）

※効果は、森づくり活動チェック（森づくりコミッションポータルサイト「森ナビ」）にて測定。

② 活動報告会

活動期間中、2 回の報告会を実施し、活動への参加呼びかけや趣旨の理解啓発に努めた（延べ 46 人参加）。

<参加者の声>

- ・会社の呼びかけで、ずっと参加しています。再生された海岸林を想像しながら作業すると力が湧いてきますね。

【参考写真】



| | |
|--------|----------------------------------|
| 事例 1-3 | 特定非営利活動法人 トウギャザー（大阪府大阪市） |
| 事業名 | 障がい者自立支援のための郵便事業との連携による施設製品の拡販事業 |
| 事業種別 | 社会福祉の増進を目的とする事業 |
| 配分額 | 370 万円 |

【事業内容】

就労支援施設で働く障がい者の賃金を向上し、経済的な自立を促すため、施設で作る製菓商品の品質向上に向けた研修を行うとともに、ダイレクトメールや郵便局広告を活用して拡販 PR を実施した。

- ① JP メディアダイレクト（発送代行業）との連携による、ダイレクトメールを使った通販、e コマースによる施設のお菓子ギフト商品の販売

過去のお菓子等購入者等 1,700 名に対して、ダイレクトメールを使った通販、e コマースによる Web 注文などを受け付け、お歳暮期のギフト商品を販売したほか、1,300 部を一般の購入者の方などに配布した。

販売数：78 セット、168,240 円

- ② 調理製菓専門学校での品質向上研修を行い、施設のオリジナルギフト商品・カタログの作成・販売

近畿一円の施設に呼びかけ、製菓専門学校でお菓子の品質向上のために研修を行い、その成果として、5 施設のオリジナルギフト商品をまとめた単独版チラシ「思いやりのギフト」を作成。近畿地方の郵便局に上記チラシを合計 80,500 部設置し、販促を行った。

研修参加団体・人数：18 団体、延べ 500 人程度参加

販売数：320 セット、679,000 円

- ③ トウギャザー独自でダイレクトメールを作成し、頒布会での製菓商品を販売
全国から施設商品のギフト（お菓子・食品）を厳選したチラシを 2,000 部作成し、過去のお菓子等購入者等へ送付したほか、一般の購入者の方などに配布した。

販売数：合計 97 セット、897,000 円

【参考写真】



| | |
|--------|-----------------------------------|
| 事例 1-4 | 特定非営利活動法人 アートマネジメントセンター福岡（福岡県福岡市） |
| 事業名 | ホームレスの就労自立支援のための舞台芸術からのアプローチ事業 |
| 事業種別 | 社会福祉の増進を目的とする事業 |
| 配分額 | 256 万円 |

【事業内容】

元ホームレスの方々の就労自立支援施設において、人間関係のコミュニケーション技術を習得し、人々のつながりの中から本来の人間的充足感を感じる市民となり、自立を確実なものとするため、舞台芸術の一般的な手法を用いた各種ワークショップを実施。

通年にわたり、演劇の手法を使った体験型講座を 20 回開催し、延べ 106 人が受講した。他者とコミュニケーションをとることに消極的な人も多かったが、受講をきっかけとして施設内のコミュニケーションが促進され、施設退所後の生活に関する予行演習として捉えるなど、自己肯定感や意欲・自信を取り戻す契機となった。

並行して、講座を実施するファシリテーターの技術向上や新規養成を行うことで、より質の高いプログラムを提供できるよう取り組んだ。

<主な内容>

・全体の目的：

想像力に特化したコミュニケーションを体験し、社会生活で活かす視点を手渡す

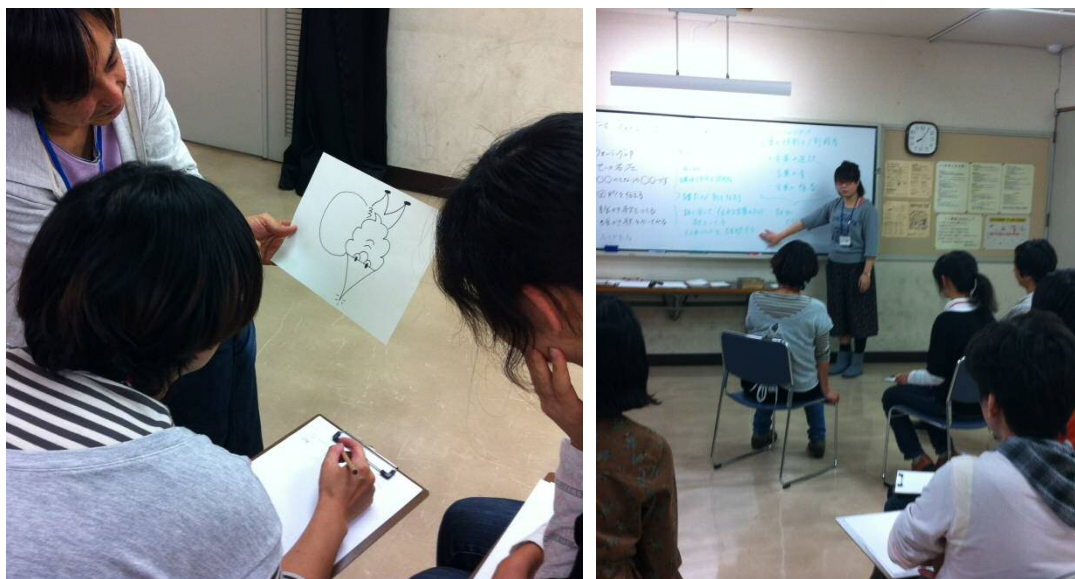
・共通テーマ：

「人は、ひとりひとり違うという面白さを知る」

・各回のテーマ：

- ① 共通点と違いを想像する
- ② 受信に着目して伝え合う
- ③ 言葉を選択し、発信する
- ④ 話し合いを通して、一つの考えをつくる
- ⑤ 視点をかえて、価値を見出す
- ⑥ 会話を通して、つながりを共通する

【参考写真】



| | |
|--------|---------------------------------|
| 事例 1-5 | 特定非営利活動法人 全国女性シェルターネット（東京都文京区） |
| 事業名 | DV・性暴力被害者支援員養成とスキルアップのための講座支援事業 |
| 事業種別 | 社会福祉の増進を目的とする事業 |
| 配分額 | 500 万円 |

【事業内容】

DV・性暴力の深刻な実態が明らかになる中、NGO・NPO等のDV・性暴力被害者支援にかかわっているスタッフ、公的関係諸機関で相談支援業務に関わる職員、相談支援事業に関心のある一般市民等を対象に、基礎講座（3日間）及び実践講座（3日間）を、2期に分けて実施した。

受講後のレポートによると、ほとんどの参加者が実践的スキルアップを実感している。また、それぞれの現場に戻ってからの学びなおしへの意欲が高く、受講者が獲得したものを持ち帰ることによる職場全体のスキルアップが期待できる。

また、様々な支援現場から参加した受講者同士の連携が生まれ、支援ネットワークが強められた。

<講座の内容・実施状況等>

- ① 基礎コース：10月。43人受講。
 - ・DV・性暴力被害にかかわる支援理念
 - ・DV防止法と関係諸法律の概要
 - ・DV・性暴力被害者にかかわる社会支援
 - ・DV・性暴力被害者支援
 - ・性暴力の構造と被害実態
- ② 実践コース：11月。50人受講。
 - ・性暴力救援センター・大阪実践報告
 - ・特別な配慮を必要とする人々への支援
 - ・DV・性暴力裁判事例と司法的課題
 - ・ケース検討
 - ・ワークショップ

<参加者の声>

- ・全国から集まった同じ志の方々と、3日間業務に直結する学びを深められたことを大変嬉しく思っております。
- ・支援者としての責務、専門性の在り方を見直す機会となりました。相談員としての原点にもどり、自分をメンテナンスした気持ちになりました。

【参考写真】



| | |
|--------|--|
| 事例 1-6 | 特定非営利活動法人 いきいき百歳応援団（高知県高知市） |
| 事業名 | 高齢者の住みなれた地域でいきいきと暮らせる環境づくりのための「いきいき百歳体操」普及事業 |
| 事業種別 | 社会福祉の増進を目的とする事業 |
| 配分額 | 250 万円 |

【事業内容】

介護予防の取組を推進するため、高知市を中心として全国約 1,800 か所で展開されている「いきいき百歳体操」を普及することで、高齢者が支えあえるネットワークを構築し、年齢を重ねても住みなれた地域でいきいきと暮らせる環境作りを行った。

(1) いきいき百歳体操お助け応援隊の派遣

会場の設営・運営・体操指導などを行う人手が不足し、活動が停滞している会場へお助け応援隊を派遣し、課題・問題点の整理や会場の活性化に貢献するとともに、新設会場の立上げ指導を行い、高齢者の居場所づくりを行った。

その他、体力測定器を持参して運動能力の把握を行ったり、防災頭巾を一緒に作成したりするなどの活動も行っている。

派遣会場参加者：高知市内 27 か所× 30 名=570 名

県外 4 か所×200 名=800 名

(2) 「いきいき百歳新聞」の発刊

地域のボランティア団体など個別に活動しているケースも多く、横のつながりが作りづらいため、「いきいき百歳新聞」を福祉施設・体操会場などに送付して、情報共有・ネットワークづくりを促進した。

発行部数：年 3 回×13,000 部=合計 39,000 部

(3) サポーター養成研修会の開催

活動が広がるにつれて、体操の指導を行うサポーターが不足してきており、十分な活動が行えていない会場もあるため、高知市と協力してサポーター養成研修会を開催し、活動の広がりに努めた。

研修会参加人数：4 回×25 名=100 名

<応援団の方のコメント>

- ・「出会えて、話せて、繋がることのできるから」活動が続けることができる。「からだも心も、お付き合いも」元気になることができる。たくさんの魅力が詰まっているんだなあ、住民のみなさんから教えてもらいました。

【参考写真】



| | |
|--------|------------------------------|
| 事例 1-7 | 特定非営利活動法人 思いをつなぐ会（群馬県高崎市） |
| 事業名 | 有事に子どもたちが自分で自分の身を守るための実践体験事業 |
| 事業種別 | 青少年の健全な育成のための社会教育を行う事業 |
| 配分額 | 290 万円 |

【事業内容】

子どもたちが一人である時に災害が起きてしまった際に、自分の身は自分で守れるようにするためには、子どものうちから防災体験を重ねておくことが重要であることから、いざという時に役立つ防災学習会を開催し、炊き出し、AED 実習、バケツリレーなどを行った。

50 体の人形を使用し、子どもが主体となって AED 講習と心臓マッサージの練習を行い、AED を使用することは怖くないということを経験してもらったり、障がいがある方と一緒に被災した場合に必要な対応の仕方を講演するなど、子どもたちにとって大変有意義な機会となった。

学習会の実施後、参加した人が同じ講師を招いて学習会を実施したり、地域の防災活動の参考にするための問い合わせが多数あるなど、活動も広がりを見せた。

<実施状況>

- ・ 6 月と 10 月の 2 回実施。
- ・ 1 回目参加者：約 400 人（幼児・小学生 70 人、高校生・大学生 25 人、一般 275 人、ボランティア 30 人）
- ・ 2 回目参加者：約 150 人（幼児・小学生 30 人、高校生・大学生 80 人、一般 20 人、ボランティア 20 人）

<主な内容>

- ・ AED 講習（1 回目）、障がい者への対応に関する学習会（2 回目）
- ・ 折りたたみヘルメット（1 回目）、防災キット（2 回目）の配布
- ・ パネルによる学習会 ・ 炊き出し体験（アルファ米試食を含む）
- ・ 子どもたちにもわかりやすい防災冊子の配布
- ・ バケツリレーゲーム、騎馬戦の応用、簡易担架づくり
- ・ 防災人形劇と防災紙芝居
- ・ 県の出前講座と起震車体験（1 回目）
- ・ 子ども救急法（2 回目）


<参加者の声>

- ・ 地域での炊き出し体験を予定していたのでとても参考になった。
- ・ 人形をつかって AED の体験ができたのでわかりやすかった。
- ・ 目の不自由な人が避難所でどんなことをしてほしいかわかってよかった。自分で考えていたことと違うこともあり驚いた。

【参考写真】



2. 活動・チャレンジプログラム

| | |
|--|---|
| 事例 2-1 | 特定非営利活動法人 富士見町体育協会（長野県富士見町） |
| 事業名 | スポーツを通じて青少年の健全育成活動を図るための事業（幼児～少年を対象とする新規事業） |
| 事業種別 | 青少年の健全な育成のための社会教育を行う事業 |
| 配分額 | 30万円 |
| <p>【事業内容】</p> <p>勝ち負けに拘ってしまったり、運動への苦手意識を持ってしまっていたりする児童が、スポーツを楽しめるようにするため、親子で参加できるスポーツ教室を開催した。児童だけでなく親子・家族の参加を意識することにより、スポーツ（身体を動かすこと）の大好きな子どもたちの育成・支援を図ることができ、地域に密着した取組みとすることができた。</p> <p><活動実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「すくすくスポーツデー」 公共施設を開放して、子どもたちが自由に遊べる場所を提供。 年 18 回実施。延べ 407 人参加 ・「キッズスポーツ祭」 町が主催、役場などと協力してプログラムを実施。 年 1 回実施。155 人参加 ・「親子運動あそび（幼児版）教室」 幼児を対象として、遊びながら体を動かせる教室を開催。 年 2 回実施。延べ 36 人参加 ・「町民スポーツ祭のキッズコーナー」 町が主催しているスポーツ祭に参加し、お子さんが遊べるスペースを提供。 年 1 回実施。100 人参加 ・「小学生のための苦手克服教室」： 運動への苦手意識を克服するため、走り・鉄棒等のコツを学ぶ教室を開催。 年 5 回実施。延べ 112 人参加 ・「親子でアウトドア体験教室」 自然と触れあいながら体を動かすことができるアウトドア体験教室を開催。 年 3 回実施。延べ 87 人参加 | |
| <p>【参考写真】</p>  | |

| | |
|--------|----------------------------|
| 事例 2-2 | 特定非営利活動法人 風の子会（東京都葛飾区） |
| 事業名 | 重度障がい者の自立と社会参加のための余暇活動支援事業 |
| 事業種別 | 社会福祉の増進を目的とする事業 |
| 配分額 | 50 万円 |

【事業内容】

社会参加に支援が必要な重度障がいのある青年たち（特別支援学校卒業生で、現在は通所施設等へ通う障がい者）を対象として、週末の小集団での余暇支援活動（外出・行事・創作活動など）を通して、将来の自立に向けて重要な社会参加や様々な経験の拡充を図り、豊かな人間関係の構築をめざす活動を行った。

また、研修や他施設見学等により支援スタッフの養成を実施した。

① 余暇支援活動

年間 34 回の余暇活動支援を実施。延べ 720 人程度が参加した。

ぶどう狩りや博物館への外出、自分たちでメニューを決めての買い物・調理・会食、スタンプやパソコンを用いて年賀状を作成するなどの創作活動、コンサートを聴いたり障がい者向けの音楽療法を受けたりする音楽活動、などの小集団活動を行った。

参加者本人たちが計画段階から参画できるよう支援し、自分の考えを言葉で表すことが難しい参加者には、コミュニケーションツールを工夫（絵カード、写真の提示、挙手等）するとともに、事前の保護者からの聞き取りによる本人の意思確認も行った。

② 支援スタッフの養成

リーダー1人、スタッフ6人で、ケース会議・心理リハビリテーション研修を12回実施したほか、他の障がい者施設のイベントやお祭りにスタッフとして参加したり、逆に活動を手伝ってもらったりしながら、活動内容の見学研修や他団体との交流を行うことにより、支援スタッフの力量を向上させることができた。

<保護者の声>

・本人が活動の計画を立てていて、「これを風の子でやってみよう」と楽しみにしている。その楽しみを励みに、平日の通所施設の作業を頑張ることができるようになった。

【参考写真】



| | |
|--------|------------------------------|
| 事例 2-3 | 特定非営利活動法人 劇場創造ネットワーク（東京都杉並区） |
| 事業名 | 「若者のためのじっくりものづくり塾」事業 |
| 事業種別 | 青少年の健全な育成のための社会教育を行う事業 |
| 配分額 | 50 万円 |

【事業内容】

中高生を対象に、平成 26 年 9 月から約半年間、「若者のためのじっくりものづくり塾」を開講した。

4 年目となる今回は、プロの舞台衣装デザイナーを講師に迎え、アンデルセンの童話「雪の女王」の登場人物の衣装作りにチャレンジした。デザインから型紙おこし、生地選び、縫製まで、全て自分たちだけで取り組んだ。3 月には 1 か月間、Gallery アソビバ（座・高円寺地下 2 階）にて作品展を開催し、多くの方に成果を見ていただいた。

4 年間を通して、子どもたちの成長に寄り添ったきめ細かい指導をすること、学校と家庭以外の子どもの居場所を作ること、ものづくりを通して子どもの想像力や自分で考え選択する力を育てることが達成できた。これまでの参加者の中には、「ものづくり塾」での体験がきっかけで芸術系の高校に進学した子、不登校だったが学校へ行くようになり、今年大学に合格した子、人と話せるようになった子、などがおり、長期に渡る活動により、子どもたちに多様な価値観を示し、視野を広げる手助けができた。

<開催状況等>

- ・開催回数：全 29 回（補講 5 回を含む）
- ・参加人数：延べ 97 人
 継続参加者 2 人、新規参加者 3 人
- ・経験を積んだ参加者は、初心者が参加しやすいよう声をかけたり、道具の使い方を教えたりした。また、学校や年齢を越えた参加者同士の交流が図れた。

<参加者等の感想>

- ・高 3 ということもあり学校のスケジュールも忙しく、最後までできてほっとしています。（参加者）
- ・娘は毎回とても楽しみに通っておりました。衣装をつくる夢が実現したようです。すべての作品に思いがこめられて、すばらしいです。（保護者）
- ・中 1 で大作を作るなんてすごい。（作品展に寄せられた感想）
- ・将来が楽しみです。（作品展に寄せられた感想）

【参考写真】



| | |
|--------|----------------------------------|
| 事例 2-4 | 特定非営利活動法人 おかやま多機能サポートネット（岡山県笠岡市） |
| 事業名 | 高齢者等への安否確認を兼ねた配食事業 |
| 事業種別 | 社会福祉の増進を目的とする事業 |
| 配分額 | 30 万円 |

【事業内容】

認知症の発症や男性高齢者が独居となった際など、食事作りが課題となる。それらの方々は、外出も困難で、買い物にも出ずにひきこもりとなることがほとんどである。このことから、地域の安心、安全を見守るため、独居のお年寄りを訪問し、直接手渡して無事を確認してお弁当を手渡す、という安否確認を兼ねた配食事業を実施した。

<活動内容>

- ・通所介護事業の栄養士、調理師による調理を、午後、弁当パックに詰め、15 時 30 分以降に夕食として配達した。
- ・必ず顔を見て、安否を確認の上、手渡した。
- ・申込用紙には、調理形態や配達時間のほか、万一の時の連絡先も記入いただいた。
- ・糖尿病、高血圧症等の病気や、好み、きざみなど、極力個人の事情に合わせた。

<活動実績>

- ・配食回数：155 回
- ・のべ食数：1,637 食
- ・対象人数：24 人
- ・本年の新規者：10 人
- ・本年の中止者：4 人（施設への入所等）

【参考写真】



| | |
|--|---|
| 事例 2-5 | 特定非営利活動法人 子どもっとまつど（千葉県松戸市） |
| 事業名 | 主に学童期の子どもと障がい者との交流を図ることで「心のバリアフリー」を推進する事業 |
| 事業種別 | 青少年の健全な育成のための社会教育を行う事業 |
| 配分額 | 50 万円 |
| <p>【事業内容】</p> <p>目に見えるバリアフリーは大切であるが、それ以上に「人と人との垣根を取り払う“心のバリアフリー”」が重要であるとの観点から、子どもの時からの障がい者との交流体験事業を実施した。</p> <p><活動の背景></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学童期からの障がい者との交流体験は、人格形成に大きく影響を及ぼし、人間を評価する「ものさし」の多様化につながる。 ・障がい者を理解することは、障がい者の意思決定や自己判断を尊重することであり、そのことが障がい者の社会参画を促し、自立への道筋となる。 <p><活動内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障がい者を講師として招き、講座「手話で唄おう」を実施。松戸市内 3 カ所で開催し、14 人が参加した。 ・聴覚障がい者の劇団デフパペットシアターひとみのワークショップを開催、14 人が参加した。 ・車椅子の元パティシエによるお菓子教室を市内 3 カ所で実施し、延べ 40 人が参加。 ・視覚障がい者による「フラワーアレンジメント」講座を 2 回実施し、延べ 15 人が参加した。 ・視覚障がい者を講師に毎月点字教室を開催し、延べ 50 人が参加した。 ・活動実績のリーフレットを 3,000 部作成し、うち 2,000 部程度を法人内での別事業実施時、ダイレクトメール送付時などにあわせて配布した。 <p>なお、これらの活動を行うにあたっては、参加者を待つだけでなく、こちらから出かけていく出前講座も行った。</p> | |
| <p>【参考写真】</p>  | |

| | |
|--------|------------------------------|
| 事例 2-6 | 特定非営利活動法人 棚田LOVER's (兵庫県市川町) |
| 事業名 | 青少年の人材育成のための棚田・地域再生事業～ステップ～ |
| 事業種別 | 青少年の健全な育成のための社会教育を行う事業 |
| 配分額 | 50万円 |

【事業内容】

日本の農村では、農業従事者の高齢化による農地の放棄が目立つようになっており、兵庫県市川町でも、農村の棚田数枚が放棄されている。棚田は平地に比べ多くの自然が残り、生息する在来種数も多く、生態系の保全にもつながる上、保水機能・治山機能などわれわれの生活を守る機能を有しているため、青少年の人材育成の場としてふさわしい。

このことから、青少年の農村での米・野菜作り体験（田植え、稲刈り、収穫祭、餅つき等）を実施した。

また、都市部での棚田・農村の普及啓発、都市農村交流活動（商店街での PR、報告会の開催）を行った。

<活動内容、参加者数等>

① 青少年の農村での米・野菜作り体験

- ・ 2014年4月・5月：参加者募集と事前に収穫用の野菜の種蒔き
- ・ 6月の田植え（7回実施）：合計88人
- ・ 8月の草刈り・草引き（4回実施）：合計51人
- ・ 9月の稲刈り（6回実施）：合計119人
- ・ 11/22、12/5の収穫祭：合計70人
- ・ 12/21の餅つき：15人

② 都市での棚田・農村の普及啓発、都市農村交流活動

- ・ 2014年4月から翌年3月まで、姫路の商店街で月3回、1回120人程度に対して、棚田の見学や活動内容の発表会を行うなどの普及啓発を実施。
- ・ 2015.1.25の活動発表会：参加者50人

【参考写真】



| | |
|--------|-----------------------------|
| 事例 2-7 | 社会福祉法人 いのちの電話（東京都千代田区） |
| 事業名 | 電話相談員の相談対応カススキルアップのための研修等事業 |
| 事業種別 | 社会福祉の増進を目的とする事業 |
| 配分額 | 29 万円 |

【事業内容】

自殺などの様々な精神的危機にある方に、ボランティアの相談員が「電話」「インターネット」を通じて親身になって対応する活動を行っているが、就労、家族、疾患、セクシャリティ等複数の困難な状況が絡み合うなど、相談員も苦慮する相談が年々増加している状況にある。このため、相談員が悩みを抱える方々の多様な背景について理解を深め、適切な対応を身に着けるための専門家による研修を実施するとともに、相談例を使った勉強会等を行うことで、相談員自身の自己点検とスキルアップの機会を設けた。

① 相談員研修会（全 7 回）：参加者数延べ 206 人

- ・ ボランティアとしてのいのちの電話
 - － 生きること、死について、相談から考える
 - ・ 性同一性障がいの理解のために
 - ・ DV について
 - ・ 遺族の気持ち－子どもを亡くした親の会の経験から
- 等

② 相談例を使った勉強会（全 2 回）：参加者数延べ 53 人

- ・ わたしの電話相談を振り返る－最近の電話の傾向を踏まえて
- ・ 実際の電話相談からみた掛け手の生活・環境・状況

③ 電話スーパービジョンの勉強会（全 1 回）：参加者数 23 人

- ・ 相談員育成を目的とした研修担当者による電話スーパービジョンを行っているが、より効果的な方法を学びスキルを向上させるために、専門家による勉強会を実施した。

<参加者の声>


- ・ 相談の背景にある様々な問題を知識として知ることによって、考えを深めることができた。
- ・ 講義と相談傾向をもとにロールプレイを行い、実際のやりとりのポイントを体験的に学ぶことができた。


【参考写真】



3. 施設改修



| | |
|---|--------------------------------------|
| 事例 3-1 | 特定非営利活動法人 スマイル（愛知県名古屋市） |
| 事業名 | 就労継続支援B型事業所どんぐりの家の自主製品販売店舗を作るための改修事業 |
| 事業種別 | 社会福祉の増進を目的とする事業 |
| 配分額 | 243 万円 |
| <p>【事業内容】 障がい者就労支援施設の一部を改修し、自主製品の展示・販売が出来るスペースを設置した。バザーや夏祭りなどのイベントも行い、あまり交流できていなかった近隣住民とのやりとりも増え、売上拡大、賃金アップにつながった。 店舗販売金額：約 13 万円（2013 年 9 月～2014 年 3 月） 賃金：1 日約 200 円（2014 年度）→1 日約 240 円（2015 年度） 自主製品：牛乳パックリサイクル製品、革細工製品、編みぐるみ、アクリルたわし等</p> | |
| <p>【参考写真】</p>  | |


| | |
|--|----------------------------|
| 事例 3-2 | 特定非営利活動法人 津久井福祉会（神奈川県相模原市） |
| 事業名 | 障がい者ケアホーム及び高齢者住宅のための施設整備事業 |
| 事業種別 | 社会福祉の増進を目的とする事業 |
| 配分額 | 500 万円 |
| <p>【事業内容】 障がい者グループホームと、障がい者と暮らすことに賛同する高齢者住宅の機能を併せ持つ「シェアハウス」を実現するための施設改修を実施。 2015 年 9 月現在、高齢者 2 名、障がい者 7 名の計 9 名が暮らしており、昼夜三交代の介護員、調理員など多様な職員がかかわり、友人・家族も気軽に訪ねられる雰囲気である。また、障がいを抱えて暮らしてきた家族が、本人・両親ともに高齢となっても一緒に暮らせる施設は珍しく、利用者と職員にとって明るく安心できて、落ち着けるホームとなっている。</p> | |
| <p>【参考写真】</p>  | |


| | |
|--|------------------------|
| 事例 3-3 | 社会福祉法人 ほっこり福祉会（大阪府貝塚市） |
| 事業名 | 避難路確保のための造成工事及び舗装工事 |
| 事業種別 | 社会福祉の増進を目的とする事業 |
| 配分額 | 500 万円 |
| <p>【事業内容】</p> <p>障がい者支援施設の災害時の避難経路を確保し、施設利用者にとって安全な施設とするとともに、災害時要援護者の避難場所として受け入れ可能な施設とするための改修工事を実施。</p> <p>以前は、災害時にエレベーターが使用できないことを考慮すると、車椅子の避難が難しい状況だったが、2階多目的ホール及び1階から空地に至る避難経路の整備・舗装、崖崩れ防止のための擁壁設置により、施設全体の安全性を確保した。</p> <p>また、今回の工事により造成された空地について、夏祭りを実施するなど有効に活用している。</p> | |
| <p>【参考写真】</p>  | |


| | |
|---|----------------------------|
| 事例 3-4 | 公益財団法人 山本能楽堂（大阪府大阪市） |
| 事業名 | 国登録有形文化財・山本能楽堂の能舞台の檜皮葺改修事業 |
| 事業種別 | 文化財の保護を行う事業 |
| 配分額 | 500 万円 |
| <p>【事業内容】</p> <p>65 年以上一度も補修されていなかった国登録文化財である山本能楽堂の能舞台の檜屋根改修（檜皮葺き替え）工事を実施。屋根の葺き替えにより、能楽堂の雰囲気が一変し、静謐な空間が創出された。</p> <p>工事の様子も一般に公開し、2 日間で 52 人が見学。工事後も、「檜皮葺き替え」という日本の貴重な伝統技術について、来場者にわかりやすく展示・公開している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能楽堂の見学者が対前年比 50%以上増加。 ・タイ首相夫人が訪れるなど、ユニークベニューとしても活用。 | |
| <p>【参考写真】</p>  | |

4. 機器購入


| | |
|--|--|
| 事例 4-1 | 社会福祉法人 心愛（大阪府枚方市） |
| 事業名 | 障がい福祉サービス事業所心学塾作業所の焼菓子生産アップのための製造機器の増備事業 |
| 事業種別 | 社会福祉の増進を目的とする事業 |
| 配分額 | 400 万円 |
| <p>【事業内容】</p> <p>障がい者の就労支援・工賃増加のため、独自のパイづくりを進める焼菓子工房の製造機器の増備を行った。</p> <p>上質なパイ・焼菓子の生産により、ふるさと小包「思いやりのギフト」に取り上げられたり、百貨店やインターネットを通じた受注が入るなどし、生産量を増加したことによって売上アップにつながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間焼菓子売上額 : 約 900 万円（2013 年比 : 約 200 万円増） ・工賃（月） : 25,000 円（2013 年比 : 約 3,000 円増） ・利用者 : 15 人（2013 年比 : 3 人増） | |
| <p>【参考写真】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> | |

| | |
|--|-------------------------------|
| 事例 4-2 | 社会福祉法人 鶴翔会（福島県会津美里町） |
| 事業名 | 障がい者支援施設ゆきわり荘入浴介助の入浴リフト新規設置事業 |
| 事業種別 | 社会福祉の増進を目的とする事業 |
| 配分額 | 220 万円 |
| <p>【事業内容】</p> <p>障がい者支援施設に入浴介助のための入浴リフトを新規設置した。重度の身体障がいがある方も、リフトに身をゆだね、安心して入浴を楽しむことが可能となり、施設生活の中での大きな楽しみである入浴を安心・安全な形で行えるようになった。</p> <p>また、介護職員の負担が軽減され、職員の怪我・離職防止、介護中の事故防止が図られるとともに、入浴時間の効率化につながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2名の重度身体障がい者を追加受け入れ。 | |
| <p>【参考写真】</p>  | |


| | |
|---|---------------------------------------|
| 事例 4-3 | 公益社団法人 生態系トラスト協会（高知県高知市） |
| 事業名 | ヤイロチョウの保護区の森の監視及び調査のためのウェブカメラシステム導入事業 |
| 事業種別 | 地球環境の保全を図るために行う事業 |
| 配分額 | 245 万円 |
| <p>【事業内容】</p> <p>ヤイロチョウの学習施設に暗視スコープ付きウェブカメラシステムを導入。繁殖期には全面立ち入り禁止区域として保全している、繁殖地の森の様子をライブカメラで見ることが出来るようになった。野鳥やムササビ、モモンガ、シカなどの生態も撮影でき、訪れた親子などが多様な森林の生態系について学習する手助けとなっている。</p> <p>また、カメラマンなどの無断立ち入りがなくなり、その分、他地域のパトロールや調査に人手を振り向けることができた。</p> <p>今後は、地元ケーブルテレビと協力して映像記録を教材化し、小学校等に配布することも検討している。</p> <p>来場者数：約 2,000 人（2014 年 7 月～2015 年 3 月）</p> | |
| <p>【参考写真】</p>  | |

| | |
|--|--|
| 事例 4-4 | 特定非営利活動法人 四国ブロックフリースクール（香川県高松市） |
| 事業名 | 不登校・引きこもりを対象に表現力を高める講座開設のためのパソコン環境整備事業 |
| 事業種別 | 青少年の健全な育成のための社会教育を行う事業 |
| 配分額 | 35 万円 |
| <p>【事業内容】</p> <p>新規のパソコンとビデオ制作に必要なパソコン環境を整備し、自分たちが通うフリースクールの活動内容を紹介するビデオ作品を、子どもたちが主体となって制作した。ビデオ制作の技術習得や、自己表現活動を通して創造力が豊かになり、学校外での学びを充実させる事ができた。また、講演会等のイベントでビデオ上映することにより、地域の幅広い年齢層の方々に、フリースクールの活動内容が認知されるきっかけ作りとなり、不登校に対する理解を深めることもできた。</p> <p>・講演会(9・3月)参加者 186 名、不登校相談会参加者 86 名、イベント参加者 706 名</p> | |
| <p>【参考写真】</p>  | |

5. 車両購入

| | |
|---|--|
| 事例 5-1 | 社会福祉法人 すこう福祉会（長野県須坂市） |
| 事業名 | 指定障がいサービス事業所「ワークハウスわらしべ」の豆腐製造部門における配達・販売用保冷車両の新規配備事業 |
| 事業種別 | 社会福祉の増進を目的とする事業 |
| 配分額 | 80 万円 |
| <p>【事業内容】</p> <p>指定障がいサービス事業所の豆腐製造部門に配達・販売用保冷車両を新規に配備した。</p> <p>保冷車の導入により、鮮度の要求される商品(豆腐)のより一層の販路拡大に力を入れることが可能となった。製造能力は月産 2,000 丁のところ、従来は、夏場の月産を 1,200 丁程度に抑えていたが、1,500~1,600 丁に生産量を増やすことができた。</p> <p>豆腐製造部門の賃金合計は 2,022,190 円（2013 年度）→2,157,500 円（2014 年度）差額 135,370 円で約 6.7%の賃金アップにもつながった。</p> | |
| <p>【参考写真】</p>  | |

| | |
|---|-------------------------------------|
| 事例 5-2 | 社会福祉法人 超寿会（岡山県総社市） |
| 事業名 | 就労継続支援B型事業における平均工賃向上等を図るためのトラクタ購入事業 |
| 事業種別 | 社会福祉の増進を目的とする事業 |
| 配分額 | 111 万円 |
| <p>【事業内容】</p> <p>就労継続支援事業所の農園部門に農業用トラクタを配備した。借用している農地の耕作可能面積を 10 アールから 16 アールと大幅に増やすとともに、耕運作業効率化や耕深の改善により、作物の育成に適した圃場環境を整えることができた。</p> <p>また、農業者の高齢化により耕作が放棄・中止された地域の農地に対する耕作依頼も増えてきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農園部門の売上額：約 60 万円(2013 年度)→約 108 万円(2014 年度) ・賃金：9,420 円(2013 年度)→11,369 円(2014 年度) | |
| <p>【参考写真】</p>  | |

| | |
|--|---------------------------|
| 事例 5-3 | 社会福祉法人 平川市社会福祉協議会（青森県平川市） |
| 事業名 | 訪問入浴介護サービス専用訪問入浴車両の更改事業 |
| 事業種別 | 社会福祉の増進を目的とする事業 |
| 配分額 | 164 万円 |
| <p>【事業内容】</p> <p>住み慣れた地域や家庭で生活を送る高齢者・障がい者等の方々が、自宅や公衆浴場での入浴が困難な場合に、専用車両を用いた入浴介護サービスを提供しており、老朽化して故障が頻発している車両の更改事業を実施した。</p> <p>訪問入浴専用車両を更改したことにより、車両・搭載機器のトラブル等による予定変更がなくなり、利用者に対する利便性・安全性が向上し、安定してサービスを供給できるようになった。</p> <p>・高齢者・障がい者への訪問入浴介護を月あたり平均 75 回実施。（前年比 41.5%増）</p> | |
| <p>【参考写真】</p>  | |

| | |
|---|----------------------|
| 事例 5-4 | 社会福祉法人 丸野福祉会（宮崎県都城市） |
| 事業名 | デイサービス事業開始に伴う車両の新規配備 |
| 事業種別 | 社会福祉の増進を目的とする事業 |
| 配分額 | 240 万円 |
| <p>【事業内容】</p> <p>新たに高齢者のデイサービス事業を開始するにあたり、利用者の送迎用車両を配備した。リフト付き車両とすることにより、デイサービスにおいて車椅子を使用する要介護者を安全に送迎できるようになった。</p> <p>また、車両の安定性が高いため、送迎時の横揺れ等により気分不良を訴える利用者が無くなった。</p> <p>・H26. 10～H27. 4 の間、無事故無違反で走行。走行距離 3, 890km、利用者延べ人数 1, 300 人、稼働日数 153 日、走行回数 260 回。</p> | |
| <p>【参考写真】</p>  | |

6. 東日本大震災の被災者救助・予防（復興）

| | |
|--------|--|
| 事例 6-1 | 特定非営利活動法人 ビーンズふくしま（福島県福島市） |
| 事業名 | 避難している子どもの学習・生活環境整備と地域コミュニティ再生のための復興支援事業 |
| 事業種別 | 東日本大震災の被災者救助・予防（復興） |
| 配分額 | 500 万円 |

【事業内容】

不自由な居住環境の中、長引く避難生活を送る福島県沿岸部地域の子どもへ、学習を軸として、遊びやレクリエーションも加えた支援を実施。子どもの帰宅後の居場所、学習や遊びの場を継続的に確保し、子どもが安心して活動できる環境を提供した。

① 帰宅後の学習支援・夏季休業中の学習支援

福島市及び二本松市の 4 つの仮設住宅で未就学児、小中学生を対象に（他の仮設住宅及び借上げ住宅からの参加も受け入れ）、帰宅後の学習支援を実施。各仮設住宅でほぼ週 2 回、年間計 232 回実施。登録者は合計 58 名。

また、夏休みの宿題対策としての学習支援を各仮設住宅で 4 回実施するとともに、大学生と連携して学習に遊びを加えた活動を実施した。

② 保護者説明会等

支援活動の内容や子どもたちの様子を共有し、保護者・仮設住民と一緒に子どもをはぐくむ体制を作るため、保護者説明会を各仮設住宅で年 4 回実施し、学習支援だよりを月 1 回発行した。

③ レクリエーション

子ども、保護者、仮設住民が力を合わせて楽しみながら活動することにより、仮設住宅でのコミュニティづくりの土台を築くことを目的とし、いわき市への遠足、もちつき大会、一年間を振り返る会等のレクリエーションを実施した。

④ ボランティア研修会

問題を共有し、ボランティアの質・個人のスキル向上を図るため、活動内容のふりかえり、浪江町視察を行うなど、ボランティア研修会を 3 回実施し、のべ 40 名程度が参加した。

<子どものコメント「学習していてうれしかったこと」>

- ・勉強を分かりやすく教えてくれた。（多数）
- ・いろいろな人たちと友達になった。
- ・友達と一緒に勉強できた。

【参考写真】



| | |
|--------|---------------------------------|
| 事例 6-2 | 特定非営利活動法人 ICA文化事業協会（東京都世田谷区） |
| 事業名 | 福島県南相馬市における被災者のための自治会支援及び心のケア事業 |
| 事業種別 | 東日本大震災の被災者救助・予防（復興） |
| 配分額 | 500 万円 |

【事業内容】

入居後間もない仮設住宅では、コミュニティとしてのまとまりが不十分である傾向があることから、南相馬市の仮設住宅において、住人の心のケアと、地域コミュニティにおける絆の強化を目的として、園芸活動を通じ、自治会を主体とした近隣住人との交流を実施した。

南相馬市内の3つの仮設住宅を対象に、

- ・活動説明会、活動ワークショップ・打合せ（春・秋）

参加者：春 35 名、秋 16 名

- ・6自治会にて園芸活動チームを結成し、活動内容・スケジュールを自分たちで決定
- ・花植え活動の実施（年2回）

園芸活動への参加世帯：春 249 世帯、秋 268 世帯

植え替え日当日の参加者：春 153 名、秋 105 名

- ・クリスマスリース教室の開催
- ・全自治会合同の園芸活動報告会の開催

などを行った。

園芸活動チームと住民との間で連携をしっかりと取り、活動チームの主体性を発揮できたため、想定以上の世帯が園芸活動に参加し、活発な活動を行うことができた。

<アンケート結果>

アンケート調査においては、91%の人々が、「近所の人々との交流が増えた」と回答。特に、今回から活動を開始した2つの仮設住宅の住民は、回答者全員が「交流が増えた」、「どちらかというが増えた」との回答があった。

【参考写真】



| | |
|--------|--|
| 事例 6-3 | 特定非営利活動法人 秋田パトラーズ（秋田県秋田市） |
| 事業名 | 被災者自ら被災者（仮設住民・地域住民）の心のケアを目的とした様々な支援活動と交流事業 |
| 事業種別 | 東日本大震災の被災者救助・予防（復興） |
| 配分額 | 465 万円 |

【事業内容】

被災地の方や秋田に避難してきている方への支援、秋田の方と被災地の方との交流についての活動を実施した。各活動とも、被災地の方との共催の形をとったことで、企画から実施に関わる中で、「自分たちの為に自分たちがやった」との思いを強くする効果があった。

① お出かけ支援

秋田に避難してきている方に対して、花火大会、日帰り小旅行その他外出に際しての送迎サポートを行った。（9回、延べ167人）

また、被災地の方を秋田の大根堀体験や近隣地への小旅行へ引率するなどの外出支援を行った。（14回、延べ131人）

② 夏祭り支援

被災地で灯籠を制作してもらい、住民の方が川に慰霊灯籠流しをした。翌日カヌー大会を実施。（夏祭り参加者 600人、慰霊祭・カヌー体験会参加者 45人）

③ 学習支援

秋田と被災地で、それぞれ2泊3日で子どもたちを招待し、ボランティアと共に夏休み学習支援、自然体験会などを行った。また、仮設住宅で理科実験を行った。

・学習支援参加者：秋田市 29人、被災地 32人

・理科実験参加者：被災地 90人

④ 東日本大震災を語り継ぐ・聞き継ぐ機会を提供する事業


被災地から講師を秋田にお呼びし、小学校などで体験談を語り継いでもらった。また、被災地に秋田から市民や学生が訪問し、現状や当時の話を聞く機会を設けた。（年間5回開催、延べ148人）

<「語り継ぐ・聞き継ぐ機会を提供する事業」に参加した高校生の手記>

・今回被災地を訪問して私たちは、本当の震災の状況を把握し、被災者の思いを聞くことができた。初めての訪問だったが、初めてなりにそして高校生なりに震災について考えることができる機会だった。

【参考写真】



| | |
|--|---|
| 事例 6-4 | 特定非営利活動法人 いわて連携復興センター（岩手県北上市） |
| 事業名 | 東日本大震災における NPO セクターの活動履歴の保存と、次の有事に対し平時から NPO として持つておくべき予備知識や備えをまとめた冊子作成事業 |
| 事業種別 | 東日本大震災の被災者救助・予防（復興） |
| 配分額 | 453 万円 |
| <p>【事業内容】</p> <p>東日本大震災における NPO セクターの活動履歴の保存と、緊急災害フェーズで果たした役割を一般の方に対して発信するとともに、次の災害が起きた時に向け平時から NPO として考えておくべき予備知識・備えを、NPO 等多くの団体が理解するための冊子を作成した。</p> <p>今回の体験をモデル化し、有事の際のセクターを超えた協力体制の構築や今後の地域を超えた防災体制への取組みに寄与することを目的として、記録誌「3.11 いわて NPO の軌跡 ～東日本大震災における支援団体の取り組み～」をとりまとめ、NPO、地方公共団体、企業に配布した。</p> <p>① ヒアリング団体 岩手県内の震災前から活動している NPO : 10 団体 岩手県内の震災後に設立された NPO : 21 団体 県外の支援団体 : 14 団体</p> <p>② 製本数 500 冊（A4 106 ページ 2 色刷り）</p> <p>③ 配布先 岩手県内の中間支援 NPO、支援活動を行う団体、地方公共団体（県・市町村）、企業（復興支援に係る CSR 部門等）</p> <p><県内の支援団体からの声> ・自分たちでこのような冊子を作ることは難しく、取りまとめて下さりありがたい。完成した冊子を使い、活動を広げていきたい。</p> | |
| <p>【参考写真】</p>  | |